



藤原 孟 議員
(5期の会)



1981年に指定された日高山脈襟裳国定公園について、環境省の中央環境審議会は5月22日の自然環境部会で国立公園に指定することを決めた。

2022年に十勝側は6市町村が十勝・日高山脈観光連携協議会を設立し、観光振興を課題としてつ国立公園化に備えてきた。早ければ6月下旬に正式に指定され、名称は「日高山脈襟裳十勝国立公園」となる。(※1) 国立公園の設立は道内では7か所目となる。

正式決定後は十勝・日高の住民にとって区域外であっても地域振興・観光振興・自然保全において地域を盛り上げ、両管内の連携を強めるべきとする声が上がった。そこで以下について伺う。

(1)明野ヶ丘公園の眺望は、過去には日高山脈から大雪、阿寒と大パノラマであったが、今は見る事ができない。対策すべきでは。

(2)忠類地区の地域振興の考えは。

(3)国立公園指定後には官民連携総合型協議会が立ち上がるが、町は

問 日高山脈襟裳十勝国立公園化決定での町の取組について

答 ピラ・リ展望塔からの眺望を生かすため、環境整備に努める

参加するの。

(※1) 令和6年6月25日、国内で35か所目の国立公園として、「日高山脈襟裳十勝国立公園」が新たに指定された。

町長

(1)アイヌ語で「偉大な崖」を意味する「ピラ・リ」の建設から27年が経過しているため、展望塔周辺の既存樹木が成長し、以前とは見える景色が異なっていることから、明野ヶ丘公園再整備基本計画ワークシヨップ「フアン・プロジェクト・まぐべつ」の意見を基に、現在計画している明野ヶ丘公園再整備事業の中で、残す樹木と切る樹木を選別し、生態系に配慮した間伐などの環境整備を段階的に実施する予定である。

新たに「日高山脈襟裳十勝国立公園」が指定されることで、「阿寒摩周国立公園」と「大雪山国立公園」を含めた3か所の国立公園が、明野ヶ丘公園のピラ・リ展望

塔から同時に眺望できることになれば、公園の新たな魅力となることから、自然環境に配慮しながら公園の環境整備に努めていく。

(2)国立公園化を契機に、十勝に訪れる観光客の増加が期待される。南十勝は、どこからでも日高山脈の雄大な姿を望むことができ、中でも、忠類市街地の北側に位置する丸山展望台と共栄牧場内の丘からの眺めは秀逸である。

本町は、国立公園化後の指定区域には隣接していないが、忠類地域は、ホテルアルコや道の駅、キヤンプ場やナウマン象記念館のほか、南十勝唯一のスキー場である白銀台スキー場など、観光・交流の核となる施設が集積していることに加え、日高山脈の眺望は他に引けを取らない忠類ならではの強みと捉えている。

引き続き、さまざまな媒体を活用して地域のイベントや多彩な観光資源の魅力を積極的に発信していくとともに、今後の国立公園化に伴う知名度の高まりを追い風と

して、南十勝夢街道4町村の各種取組や関係機関との連携を図りながら、忠類地域の強みを最大限に生かしたさらなる交流人口の拡大に努め、地域振興につなげていきたい。

(3)環境省中央環境審議会の答申結果を踏まえて、官報告示後には、環境省をはじめとする国の機関や北海道、区域内の13市町村、民間団体など多様な主体の参画により総合型協議会が設立されると聞いており、幕別町を含む区域外の十勝管内町村は構成員に入っていないが、町としても、協議会への加入の有無にかかわらず、国立公園化が町域団体の活性化につながるよう、今回のチャンスを生かしていきたいと考えている。



「明野ヶ丘公園からの眺望（ドローンによる撮影）」